

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 "ご利用者：90代・女性 要介護2

利用期間：令和2年7月よりしおん入所中

傷病名：左大腿骨転子部骨折、高血圧症、変形性腰椎症、アルツハイマー型認知症

経 過：令和2年4月、転倒し左大腿骨転子部骨折によりA病院に入院、その後B回復期病院へ転院し退院となる。お孫さんが精神疾患の為入退院を繰り返していることもあり、自宅で介護することが難しくリハビリ目的もあったことから令和2年7月にしおんに入所される。

内 容

元々は社交的な性格で畑仕事や手芸、ご近所でのお茶飲みが趣味だった。数年前に息子さんと夫を同時期に亡くしたこともあり、自宅で生活していた時から1人になることへの不安感が強くあった。その為、施設への入所にはあまり気がすすまず、入所間もなくは居室で過ごす時間が多くみられた。

職員や他利用者さんと日常会話はするが難聴もあることから上手にコミュニケーションがとれないこともあった。1か月が経つ頃には頻繁に「家族にいつ帰れるか聞いてくれない?」「いつまでここにいればいいんだべ」と帰宅願望が顕著に出てきた。なんとか施設生活での楽しみや生きがいを持って生活してもらいたいと思い、初めに中庭での園芸をすすめる。手際よくプランターに苗を植えるが「またやりたい」という言葉は聞けなかった。次に手芸、折り紙を折ると「これはいいね。できそうだよ。」と今度は満足そうな笑顔が見られた。同時に不安を取り除いてもらおうとご家族に手紙を書き「いつ帰れるか」を自分で聞いてみることを提案すると「やってみるよ」と答えがあった。

手紙の返事を待ちながら手芸に取り組む日々が続く、利用者さんの表情や行動が変わっていくのがわかった。隣のユニットで手芸に取り組む他利用者さんに話しかけたり、自発的に歩行訓練をおこなったりと入所時と比べても活動量が増えていった。令和3年9月に手紙の返事が届き「しばらくは施設での生活になると思います」旨の返事だったが「家族も忙しいから仕方ないね」と前向きな言葉が聞かれ、いつの間にか帰宅願望も聞かなくなっていた。その後も手芸への取り組み意欲は増すばかりで準備をする職員に「これ終わったから次はないのかな?」とお願いしたり、毎月の行事食のお供え物を1年以上作っている。最近ではアイパッドを使用し動画で作り方を観ながら取り組む姿もみられる。多くの利用を持っていただいた利用者さんを今後も支援していきたい。

者さんが「お家に帰りたい」という感情を抱くが、その気持ちを忘れられるほど施設生活に生きがいを持っていただいた利用者さんを今後も支援していきたい。